

●白州だより

2009年12月7日
二十四節気 大雪
発行 白州郷牧場
山梨県北社市白州町横手 2259
TEL : 0551-35-4520
FAX : 0551-35-2970

白州郷牧場からの初冬のおたよりをお届けします！ <http://www.hakusyu.jp/> info@hakusyu.jp



「馬糞の川流れ」

2009.10 椎名 盛男

中川昭一氏が死んだ。憤死でもなければ自裁でもない。今の自民党を象徴する精神的衰弱死のような形であった。多分、当人が一番驚いているのかもしれない。彼の死を受けて「保守再生の逸材を失った」と安部晋太郎や麻生太郎がいていた。わたしは自民党というのはここまで馬鹿になっていたのか、と思った。自民党がいつ保守だったか。日本の保守とは憲法を何か何でも守るといふ共産党や社民党（旧社会党）であって、憲法体制に絶えず挑戦してきた革新は自民党であったはずだ。東西対立で西側に立つのが保守という言い方がそれらしい雰囲気を持ったのも89年までだ。それから二十年近い歳月が流れた。言い換えれば、二十年もの間、死んだ時間の匂いを放って死に続けて来たことになる。

自民党とは日米安保体制の支持と市場経済を認めることの2つを綱領としてきた。この2つを受け入れられるのなら誰でも黨員としてきた。近代政党の

特色である思想を持たない変化自在のお化けのような党であった。だから自民党ひとつが日本政治の多様な生態系であった。この生態系を壊したのは小沢一郎である。彼の導入した小選挙区制は地方に「ある一匹の政治家」しか認めない制度であった。このとき自民党は命脈をたたれた。

そして、ついに死んだ。自民党の再生などありえない。自民党の生き残りは馬糞の川流れの運命をたどるだろう。要するに自民党と官僚は60年国民を愚弄したが、愚弄された国民も愚弄されることに飽きちゃったのであろう。それは4年後自民党が復活するほど甘くないと思うのである。世界は変わったのである。

日経を見ているリーマンからの経済分析だらけである。ああでもないこうでもないといっている。しかし、リーマン以来大量に印刷されたドル紙幣は何処に流れ今何処にたまっているのか語るものはいない。EUも日本も中国も何処の国も紙幣を印刷しまくった。これらのマネーはいったい何処にあるのか、何処へ向おうとしているのか。このことを →

語る人はいない。ゴールドが上がっている。ということはアメリカをはじめとする各国の紙幣の価値がゴールドに対して下がっていることを物語っている。マネーは明らかに行き場を失っている。金貸し資本主義が本格的にのたうちまわるのは時間の問題である。

多分、マネーは東アジアに向うだろうし、アジアに向うのは間違いない。地球で40億近い人口を占めるのはこの地域だからである。かといってそれで金貸し資本主義が回転するとは限らない。この地域の人々に物が買える収入を与えねばならず、金の使い方を教えねばならず、借りた金は還すという教育をしなければならない。そのためには先進国労働者の賃金を更に下げねばならない。ちなみにお金を借りるという言葉はあるが返すという言葉はタイにはないという。遠からずこれらの国々は近代化ごっこに飽きるだろう。

日本のGDPの65%は個人消費だそうだ。だったら飽きる飽きないはとても重要な視点であると思う。親は子供をしつけるのに飽きちゃったし、子供もイイ子でいることに飽きちゃった、だんなは女房に飽きちゃったし女房もだんなに飽きちゃったし、学校も、会社もみんな飽きちゃったのではないのだろうか。スーパーやコンビニも生協も飽きられ

ちゃったのではないのだろうか。戦後60年の代償といってしまうればそれまでだが。わが国にあっては、戦後60年が馬糞の川流れのようになっていくのだろう。

馬糞の川流れ……馬糞は川に流すとバラバラになる。逆に牛糞は水で固まる。馬糞には粘着力がないという意。

「明日は明日の風が吹く」

来年の一～三月に二番底が抜けるとマスコミは騒ぎ出した。山梨の寒村にあっては、もう何でもいから何番底までも抜けてくれと言いたい。このグローバルな商品経済を止められない以上、先進国といわれる国々の労働者と、発展途上国といわれる国々の労働者の賃金が出会うところが、庶民の暮らしの平均的水準となる。日本の賃金は、そこまで落ちていくし、止める方法などない。日本の農産物も下落し続ける。サラリーマンの収入が大幅に減少するし、仕事がなくなるからだ。公務員も大企業社員も冬の時代が来た。彼らを養ってきたのは一般国民と中小零細企業である。この人たちの経済が破綻して、彼らが生き残れることはありえないだろう。

とまれ国家がどうなろうと庶民（人々）の生活は続くのだし、今日は明日になれば昨日になる。明日になれば明日の風が吹く。当分、寒村から世界を眺めているしかないようである。

「秋冬野菜がやってきた」

農場は夏野菜が去っていき、完全に終わりました。ハウスには、大玉トマトが140本くらいどこまで寒さに耐えられるか実験されています。しかし、12月上旬には終わるでしょう。2009年はまだ終わっていませんが今年の6～7日は雨ばかりでした。農場は7月に近年にない大幅な減収となりました。山梨は梅雨明け宣言のないまま、8月上旬には秋風が吹きはじめ、芒の穂を揺らしはじめました。幸運なことに直撃していった台風は、目が通過していただけで済みました。幸い秋冬野菜は順調です。

今年、野菜の価格にかなりナーバスになって過ごしてきました。しかし、販売先の努力によって契



「りんごが教えてくれたこと」

(日経プレミアシリーズ)

木村 秋則 (著)



著者は木村秋則さんという津軽のリンゴ農家である。昔直木賞とかの選考のとき「わたしは津軽のうまれですが、津軽にはただ小説をかくというだけのために妻子を飢えさせ、親類、友人に迷惑をかけて括として平気である風があり

ます」と石坂洋二郎さんが語ったそうだ。そのとき一同は皆津軽を憂いおもいをはせたようだ。木村さんの本を読んだとき上述の話を思い出した。

津軽の友人からはかまどけしの話は聞いていた。こういう話があるということ自体いかにかまどけしが多かったということであろう。しかし、わたしは、

津軽の人が自己破滅型でなく津軽には聖なるものへあこがれる血の風土が濃いのではないかと思ってきた。聖なるものへの憧れがかまどけしの道を歩ませる、と。だから木村さんにとって聖なるものがリンゴの木であったのだと思うのである。この本は木村さんの哲学の書である。人類は正しく生きる倫理を求めてきた。ユダヤ人はそれを宗教に求め、ローマ人は法に求め、ギリシャ人は哲学に求めたという。木村さんはそれを土に求めた。魂の透明度の高い農民の良書である。

日本の稲作も2000年の歴史を持つ。しかしながら、未だに米づくり云々といっている。つまり、未だに米づくりの方法が確立していないのだ。氷河期が終わり、溶けだした大量の真水がどんと大西洋に押しだし、地球は寒冷化したという。シリア高原辺りで小麦が発見されたのは寒冷化が大きく関与しているという。農業という文明に人類が踏み切ったのは寒冷化であるらしい。

木村さんのような人—野性種の周りに立って種を人に近づける人たちがいたのだろう。農業における発見や発明者は皆、歴史に埋もれていく。木村さんもそうになっていくだろう。技術は当たり前になって。

(椎名 盛男)



約価格は維持されてきました。野菜の価格は下落したままです。今後、更に下がる見通しのようです。農家は高齢化もあり廃業していくでしょうし、農業法人は倒産していくでしょう。こういう時代にあって、子供たちの学校を継続し、土と水のゆるやかな共同体の継続は、これまでのようにはいかないでしょう。私たちのみの安全圏などありはしないと思っています。土台、人より得をして、儲けて楽しく生きることなど山里の暮らしは、人としておきません(都会もそうなったようですが)。しかし、どうだろうと私たちは土と水と子供たち(自然)に聖なるものを求め、神の御業(農業)の手伝いをしていくしかありません。なぜなら、この村の土と水と森は、私たちのホームだからです。秋冬野菜、今年も元気です。紅葉は盛りです。



「キララ秋の学校」感想

今回の秋のキララの学校は二日間ということもあってか、例年にないくらいの、子供三人の参加になりました。夏のキララの学校に比べて、圧倒的に少なく、落ち着き、どこか寂しい気もしましたが、子ども達は「玉ねぎの定植」「夜ご飯の野菜収穫」「ご飯作り」「キャンプファイヤー準備」などを手伝っ

てもらい、短い時間の中で各々楽しく白州の秋を過ごせたことと思います。

特にキャンプファイヤーは子供達と大人達が楽しむ交流会となり、大人の秋のキララを楽しむことができました。これもキララの学校ならではのと思います。たまにはこんなのもありなのではないでしょうか。それでは、また、冬のキララでお待ちしています。
(牧場スタッフ：岸 直樹)

「キララ冬の学校」新年を迎えて

12月に入り白州は冬本番で。例年に比べると少し暖かいかないという感じですが、朝晩の冷え込みは厳しく、畑に霜(しも)も降りました。晴れた日の夜空は、星で埋めつくされんばかりで、とてもきれいです。そんな白州キララより、冬の学校のお知らせをお届けします。



2010年1月4日(月)～7日(木)に「キララ冬の学校」が開催されます!

冬の学校は4日間です。「餅つき」、「冬の星の観測」、「冬山散策」、「味噌づくり」などを予定しています。詳細は、<http://www.hakusyu.jp/kilala/> で。

お問い合わせはお電話か、電子メール info@hakusyu.jp にてお受けします。また右のQRコードを読み取っていただくことで、携帯電話からも「キララの学校」の最新情報をご覧になれます。

